

可茂農林事務所の普及活動状況 令和6年12月27日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■新規就農者・研修生 JAめぐみの集合研修で「植物生理」について学ぶ

JAめぐみの管内の研修拠点等の研修生は、主に実技中心の実践研修をしており、それを補完する講義として、11～1月の金曜日午前に全12回の集合研修が開催されている。

12月は、「植物生理」「青果物流通」等の講義が行われ、可茂農林事務所では、「植物生理」の講義を担当した。

生理生態に合わせて栽培技術が組み立てられていることを伝え、光合成能力を高める方法や養分の吸収の注意点などを解説した。受講生は各回10名程度で、熱心にメモを取ったり、質問があるなど意欲的に取り組んでいた。

農林事務所では、新規就農者の育成と営農定着に向けて、関係機関と連携して、集合研修や新規就農者への重点巡回指導などに取り組んでいく。



【講義の様子】

(地域支援第二係)

■可茂地区担い手リーダー 井戸『畑』会議で、農業高校生と意見交換

12月17日、農業の現場を学ぶ出前講座の一環として、加茂農林高等学校において「農業を学ぶ君たちへ～第10回井戸『畑』会議」が行われた。可茂地区の担い手リーダー（可茂地区指導農業士、女性農業経営アドバイザー、青年農業士）が主催し、岐阜県が運営費の一部を支援して開催した。当日は生産科学科と園芸流通課の1～3年生の希望者21名と担い手リーダー12名が参加、3つの班に分かれて30分毎に3回、メンバーを入れ替えて意見交換を行った。



【担い手リーダーと高校生(右)】

農業大学校に進学が決まり職業として農業を目指す生徒から、まだ進路が決まっていない生徒まで様々で、自身の夢を語ったり、実際の農業現場における楽しみや苦労など積極的に質問する姿が見られた。担い手リーダーからは、「最初は農業に興味がなかったけど、体験してみたらすごく楽しくて農業を始めた」など就農のきっかけや、「今年の夏は特に暑さが激しく苦労した」といった現実の厳しさも伝えていた。

農林事務所は、当日の進行を担当するとともに、就農に際しての支援制度について情報提供した。こうした活動を通じて農業への理解を深め、就農への意欲が高まることを期待し、今後も支援を継続することとしている。

(地域支援第二係)

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■山之上果樹 1月技術情報で「夏の高湿障害発生状況と原因」について情報提供

美濃加茂市山之上地区では、山之上果実農業協同組合員115戸、美濃加茂市果樹研究会会員15戸の農家が主にナシ、カキを栽培し、生産販売している。この方たちに農林事務所では、関係機関と連携して、栽培技術情報を毎月、配布またはメール配信により提供している。

12月21日に発行した「ナシ、カキ1月の栽培管理」では、令和6年産を振り返っての生育概況として、

カメムシ類の大発生、夏期の異常高温によるナシの果肉障害の発生状況と原因等について情報提供した。そして、今後の対策や次年度産に向けた栽培の留意点と、次年度に向けての対策を紹介した。

農林事務所では、今後も継続して果樹技術情報を提供し、農家への支援を行っていく。

(園芸産地支援係)

■八百津町若手農業者等 八百津町を元気に！（「直売所」から情報発信！）

八百津町では、直近6年間で3名が新規就農し「地域計画」の担い手に位置づけられている。新規就農者は自己の経営に加え、町の農業振興に強い関心を持っており、令和6年1月からは町、JA、農林事務所の協力・支援のもと、町内若手農業者有志を主体に、「農業」を通じた町活性化を目指すプロジェクト活動にも取り組んでいる。（「おいしいやおつプロジェクト（仮称）」、以下「PJ」）



【直売所の様子（11/28）】

PJ活動の一環として、8月にJA八百津支店空き店舗を活用してPJメンバーの農産物を主体とした直売所「八月だけの八百津の八百屋」を1か月限定で開設した。地元消費者等からも好評で、11/28、12/20には当日限定で直売所「八百津の八百屋」を開設した。

両日とも、来店客に対して農業者自らが商品説明等を行い、若手農業者の営農活動等に対する理解や、PJ活動に対する一定の支持も得られるようになってきた。

同PJでは、直売所を通じた情報発信とともに、八百津町産農産物のブランド創出、町農業の活性化に向けた模索・検討を継続することとしており、農林事務所では、今後も町、JAとの連携を通じて、同PJ活動に対する支援を継続する。

(地域支援第一係)

■夏秋なす みのかも夏秋なす部会の次年度栽培に向けた栽培暦の検討

今年度の夏秋なす栽培において、夏～秋にかけての高温、猛暑によるつやなし果、日焼け果の障害果発生やカメムシ類、ハスモンヨトウなどの多発による被害が目立った。

このため、次年度の栽培暦の作成にあたり、生産者への農薬使用状況や効果についてのアンケート結果を踏まえ、12月4日にJA、農薬販売業者を交えた栽培暦検討会を開催した。これまでの病害対策(褐紋病、褐色腐敗病)に加え、高温により多発が予想される害虫対策(カメムシ類、ハスモンヨトウ)を強化した防除体系とした。新たな防除暦は12月19日の部会反省会で説明し、生産者への周知を図った。



【遮熱シートによる高温対策実証】

また、高温対策として今年度秋に実施した遮熱シートによる実証は、次年度は夏から行い、その効果を確認する。

農林事務所は、今後もなす産地の維持・発展に向けて支援していく。

(地域支援第一係)